

CSVとCSRの違い等について

(持続可能な開発計画に必要な共通価値の創造とは)

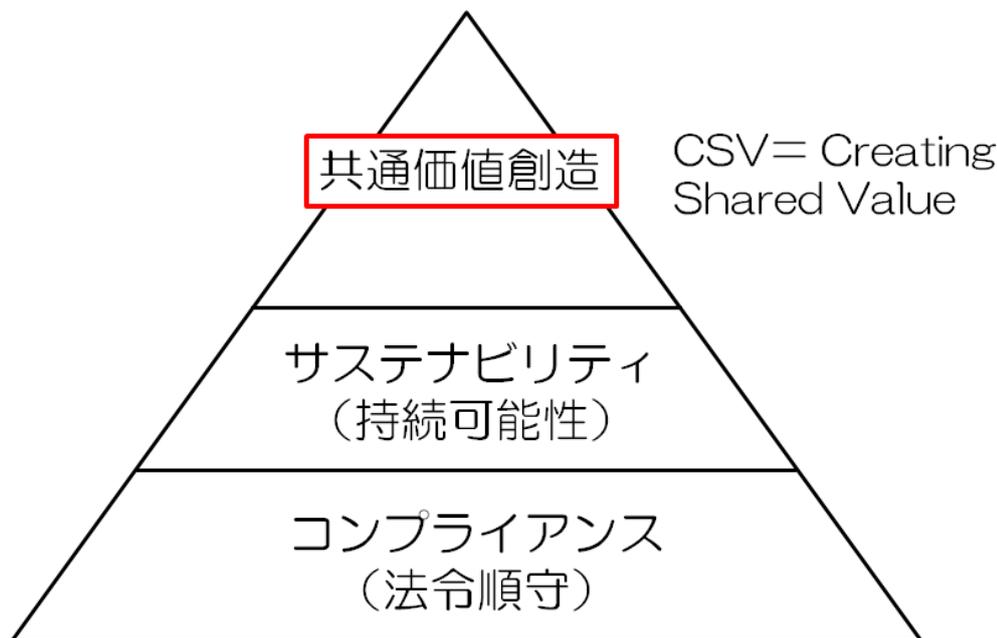
1. CSV(共通価値の創造:Creating Shared Value)とは何か?

CSVとは、共通価値の創造=Creating Shared Value の事を言い、企業が事業を営む地域社会の経済条件や社会状況を改善しながら、みずからの競争力を高める方針とその実行と定義できます。共通価値を創出するにあたって重視すべきことは、社会の発展と経済の発展の関係性を明らかにし、これを拡大することにあります。

そもそも、CSVはハーバード大学ビジネススクール教授のマイケル・E・ポーター氏が中心となり提唱している概念であります。

「共通価値の創造」は、コンプライアンス(法令遵守)やサステナビリティ(持続可能性)の追求のさらに上を目指す考え方です。中長期的な視野を持って、社会的状況や経済状況を鑑みて、社会的意義のある事業活動を行っていく事で、より企業経営を堅実に行っていくことを目指しています。社会と株主双方にとって価値を創出していくことが求められています。企業としては、優れた人材と資本の両方の資源を投入して、関係する全てのステークホルダーとともに、事業活動として価値創造していくことが必要となっています。図で示すと(図1)の様になります。

(図1)



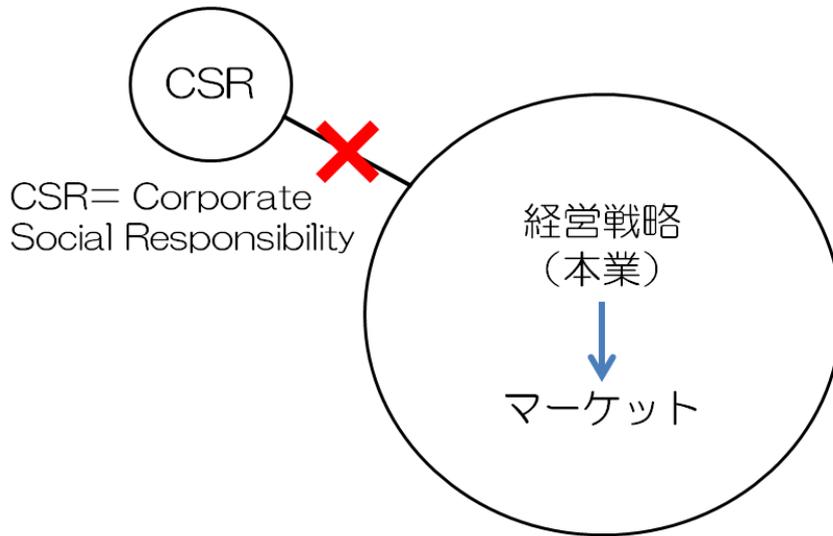
2. CSR(Corporate Social Responsibility)について

一方、CSRは、マイケル・E・ポーター氏によりますと、企業にとっては経営戦略とはなり得なかったと提起しています。社会貢献活動(フィランソロピー)や慈善活動と理解されて来たCSRは、企業の事業活動とは直接的な結びつきが希薄であったとされました。

そして、2016年はCSR/ESGに関して国内外で大きな動きが起きました。トレンドがすべてとは言いませんが、社会動向を的確にキャッチアップし、ステークホルダーのニーズに対応していかなければ、ステークホルダーに見

向きされなくなり企業は生きていけません。CSRは企業にとって、まさに“生き残り戦略”の一つとなりました。サステナブルな社会に貢献するために、企業はCSRをより重視した経営をするわけですが、まだまだコミュニケーション上の課題や、ステークホルダー・エンゲージメントをCSR活動の課題とする企業も多くあります。(図2)

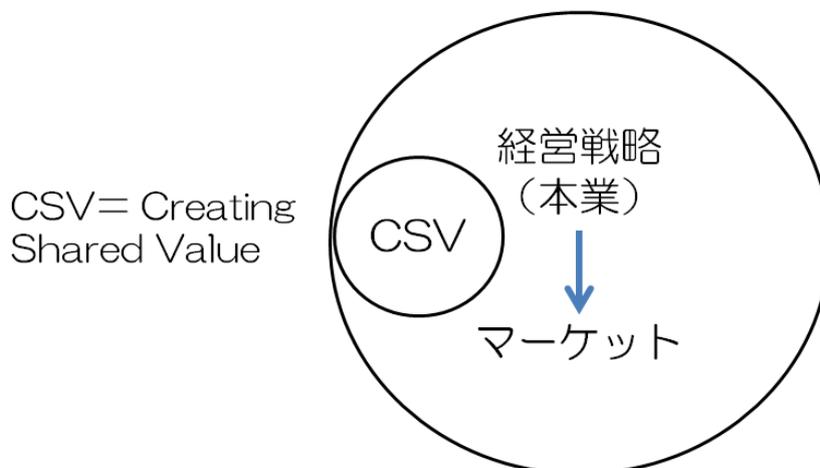
(図2)



3. CSV(共通価値の創造:Creating Shared Value)について

CSV(Creating Shared Value)は、企業にとって経営戦略の一つとして認識され、本業に即した形で社会的課題を解決する取組みを行っていくべきだという示唆のもとに、マイケル・E・ポーター氏から提言されています。現在、ネスレが世界で初めてCSVの概念を取り入れて、CSV(共通価値の創造)活動をグローバル展開しています。(図3)

(図3)



3. CSRとCSVの比較

一方で、マイケル・E・ポーター氏は「寄付や社会貢献を通じて自社イメージの向上をはかるこれまでのCSRは、事業との相関性はほとんどない」としています。CSVとCSRとは社会性という意味では似ていますが、端的に言うと、CSRは守りのイメージです。社会や環境への自社の責任として害を低減する、ステークホルダーと良好な関係を生み出すものですが、どの会社でも同じような活動をしています。一方、CSVは、攻めのイメージです。その企業の特徴（経営資源・専門性等）を活かし、資本主義の原理に基づいて、ビジネスとして社会問題を解決するという視点であり、その点で、CSRとCSVでは大きく異なっています。



ビジネス+IT

出所: マイケル・E・ポーター、マーク・R・クラマー「共通価値の戦略」ハーバード・ビジネス・レビュー2011.6より筆者作成

4. ネスレの事例

■ CSVはネスレのCSRの「一部」—ネスレ社会ピラミッド—

閉じる ×



以上